

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873300859
法人名	日鉱建運有限会社
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 サングリーンピア大宮
所在地 (電話番号)	茨城県常陸大宮市若林952-1 (電話)0295-53-6135

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成20年1月29日

## 【情報提供票より】( 19年 9月 7日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人	

## (2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	RC 造り	
	2 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 150,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 94 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	志村大宮病院 ・ 根本歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山林に囲まれ、裏側には簡易な野菜作りが行なえる庭園があり、同時に商業地域へのアクセスも便利な地域にホームは設置されている。ホームは2階建ての1Fに位置されており、2Fは民間アパートとして居住者がおり、極めて密接な地域住民との交流が図られている。特に、ホーム駐車場にはベンチが設置されており、ホームの利用者と2Fの居住者が共にゆったりと休めることができるようになっている。前回の評価での主な改善課題に対する取り組みは、現在進行中であり、ホーム内における福祉サービスの質の向上と、地域交流の促進が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で明らかになった課題に対し、真摯な姿勢で取り組んでいることが確認された。しかしながら、課題解決に向けて現在模索中といえる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	課題をどのように解決し、具体的な福祉サービスの質の向上に結びつけるか、それを見出すためのホームの熱意が、やがて他の機関や住民に良い影響を及ぼしていくことを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民や市担当職員などをメンバーにした運営推進会議が開催されている。今後は、会議のメンバーに、利用者やその家族にも加わっていただけるようなホーム側からの呼びかけを期待したい。また、市のグループホーム連絡協議会に参加し、積極的に情報交換を行っている。今後も、ホーム側から積極的に市役所等へ働きかけ、有機的な連携の構築を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者のホームでの生活状況は、毎月報告書として家族に郵送されている。また、家族面会時に口頭などで報告も行っている。玄関先に設置された意見箱に寄せられた家族からの意見に真摯な姿勢で対応し、その結果をホームの広報誌において開示されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の公共機関等に交流を呼びかけている。近隣小学校の車いす体験学習などを受け入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をつくるとき、当時の職員全体で話し合いを行い、KJ法を用いて考案し、その結果をホーム内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員の申し送りや会議を行なうリビングに掲示されており、その都度、理念に基づいたケアの実践について確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公共機関等に交流を呼びかけている。近隣小学校の車いす体験学習などを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で明らかになった課題に対し、真摯な姿勢で取り組んでいることが確認された。	○	課題解決に向けて現在模索中であった。ホームの熱意はやがて他の機関や住民に良い影響を及ぼすと信じて、今後の取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や市担当職員などをメンバーにした運営推進会議が開催されている。		会議のメンバーに、利用者やその家族にも加わっていただけたよう、ホーム側から呼びかけていくことに期待したい。

茨城県 グループホームサングリーンピア大宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡協議会に参加し、積極的に情報交換を行っている。		今後も、ホーム側から積極的に市役所等へ働きかけ、有機的な連携の構築を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの生活状況は、毎月報告書として家族に郵送されている。また、家族面会時に口頭などで報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に設置された意見箱に寄せられた家族からの意見に真摯な姿勢で対応し、その結果をホームの広報誌において開示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が利用者にならざる影響について理解しており、離職を防ぐための配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員が一人でも多く研修等に参加できるように、常に配慮している。内部での勉強会を定期的開催できるようにすることが、今後取り組むべき課題であるといえる。		勉強会などの機会をとおり、世代の違う職員同士が連携が深められることが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度の頻度で開催される市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換などに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用(お試し入所)などの機会を提供し、いきなり利用開始ではなく十分に検討できる配慮(機会)がなされている。また、利用開始から間もない頃は、できるだけ多く面会にきていただくよう家族へお願いをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、さまざまな生活技能等について、人生の先輩でもある利用者に教える姿勢があり、親密な関係性をつくろうと努めている姿があった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前回の外部評価で得た知見をもとに、聞き取り調査によって得た生活歴や趣味などを個別記録の裏表紙に貼って、職員がいつでも確認できる状態に整理されていた。		アセスメントシートを活用して、日々の生活から得た利用者の思いを継続的に記録していくことで、より利用者の思いに近づくことが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者からの聞き取りをもとに、家族と調整しながら介護計画を作成している。そのため、利用者ごとの個別の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に記載されている短期目標を抜き出し、その実施記録を毎日記録している。介護計画の見直しは、職員会議などの機会に不定期ながら実施されている。	○	利用者に特に大きな状態の変化が見られなかったとしても、最低でも3ヶ月を目途に介護計画の見直しを図ることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	最長1ヶ月を目安にした体験入所の実施や、家族が対応できない受診の支援を行うなど、柔軟な対応に取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入所前からのかかりつけ医に継続的に受診できるよう支援している。年に1回健康診断を行っており、その記録が残されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いままでに看取りの事例はないが、できる限りホームで対応していくよう利用者および家族からの意向を確認することで方針を共有している。		今後起こりうる問題として利用者の重度化に備え、マニュアルなどの整備が図られることが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時の個人情報使用の同意の他に、行事でのスナップ写真をホーム便りに載せる際の写真掲載の同意を、利用者および家族から得ている。しかし、数名の利用者の居室の人目のつくところに、昼間、ポータブルトイレがそのまま設置されているところもあった。	○	排泄行為を連想させるものに対し何らかの配慮を行い、利用者の尊厳を守る取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課は特に定められておらず、利用者は自由に時間を過ごすことができている。裏山にある栗を拾いに行く数名の利用者が、楽しそうに戻ってくる姿を見ることができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるメニューが考えられており、利用者が可能な限り作業に参加、分担して食事が楽しめるよう、配慮されている。		施設的な対応ではなく、あくまでも在宅を意識したケアの提供に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	りんご湯やゆず湯など、季節感を大切にした入浴の支援を行っている。職員の配置が可能な範囲において、自由な時間に入浴していただけるよう取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム周辺の草むしりや食事の米研ぎなど、利用者はそれぞれにやりたいことやできることを自由に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買い物や外食の他にも、ドライブやピクニックなど屋外に出る機会を多くつくり、利用者が引きこもらない生活の支援に取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に、夜間以外は玄関等を施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、定期的に避難訓練や通報訓練を行っている。		今後は、食糧などの非常用備蓄を確保し、災害発生時に地域住民との協力体制の整備に取り組むことに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分・食事の摂取量を記録して、利用者の状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用空間には掲示物や装飾品が多い。しかし、それについて(居心地のよい共有空間づくりについて)職員間での意見合意がなされていない。	○	職員全体でリビングの掲示物等の再考を行い、利用者にとっての居心地の良さについて、検討されることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、利用者の思い思いの品々が持ち込まれており、利用者の個性が反映されていた。		